

重要文化財「定光寺」+ 国際芸術祭あいち2025 見学会

秋の紅葉シーズン、そして芸術の秋、瀬戸にある重要文化財「定光寺」と瀬戸の愛知県陶磁器美術館で開催の「国際芸術祭あいち2025」の見学会を行います。

定光寺は・・・

本尊は延命地藏願王菩薩（地藏菩薩）。桜や紅葉の名所としても知られている。寺域に隣接して尾張徳川家初代徳川義直の廟所である源敬公廟がある。廟所正面に竜の門があり、その左右に築地塀が伸びる。塀で囲まれた内側に焼香殿と宝蔵、その先に唐門があり、唐門の奥に義直の墓標が立つ。義直の墓は慶安4年（1651年）、焼香殿などの周囲の建物は翌承応元年（1652年）に建立されたもので、参道途中にある獅子の門は元禄12年（1699年）の建立である。焼香殿、宝蔵などは禅宗様を基調とし、中国風の装飾を施している。建物6棟と墓1基が重要文化財に指定されている。

国際芸術祭あいち2025とは・・・

2010年から3年ごとに開催されており、今回で6回目を迎えます。国内最大規模の国際芸術祭の一つであり、国内外から多数のアーティストが参加します。現代美術を基軸とし、舞台芸術なども含めた複合型の芸術祭で、ジャンルを横断し、アートの多様性を「あいち」から発信します。

(開催期間 2025.9.13～11.30)

開催目的・・・

新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。
現代美術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。
文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。

**フリーパス
券付**

日時 2025年11月14日（金）9：30～17：30

集合場所 名古屋商工会議所ビル前（名古屋市中区栄2-10-19）

見学先 定光寺

〒480-1201 愛知県瀬戸市定光寺町373

愛知県陶磁美術館（国際芸術祭あいち2025）

〒489-0965 愛知県瀬戸市南山口町234番地

参加費 参加費には定光寺拝観料、「国際芸術祭あいち2025」フリーパス券、往復交通費（マイクロバス）が含まれています。

中支部会員 3500円

他支部会員 4500円

一般 5500円

専攻建築士は500円引き

ゴールド会員は300円引き

CPD 1 単位予定（定光寺の見学）

募集定員 15人（応募多数の場合は抽選にて決定）

昼食 道の駅「瀬戸しなの」に寄ります。各自で昼食をお取りください。



(公社)愛知建築士会名古屋中支部主催

重要文化財「定光寺」+ 国際芸術祭あいち2025 見学会 (11.14)

行程	9:30	集合 (名古屋商工会議所ビル前)
	11:00 ~ 12:00	定光寺見学 (60分)
	12:00 ~ 14:30	移動・昼食 (道の駅「瀬戸しなの」)
	14:30 ~ 16:30	愛知県陶磁美術館 芸術祭見学 (120分)
	16:30 ~ 17:30	現地出発・帰路 (高速利用)
	17:30	解散 (伏見 商工会議所ビル前)

申 込 書 (申し込みは1名毎に記入してください)

氏名	
住所	〒
携帯番号	
メールアドレス	
CPD番号	
区分 (該当箇所に☑ を入れて下さい)	☐ 中支部 (3500円) ☐ 他支部 (4500円) ☐ 一般 (5500円)
	☐ 専攻建築士 (500円引) ☐ ゴールド会員 (300円引)

申込先 ishiisekkei@eco.ocn.ne.jp

抽選後に当選の方には参加費の振込先をメールで送ります。

振込完了後のキャンセルはできません。

振込確認後、全員の方に国際芸術祭あいち2025のチケットをお送りします。当日必ずチケットを持参してください。
このチケットは別会場、別日に何度でも使用できます。

見学会とは別に芸術祭のチケットを追加でご希望の方はお問い合わせ先まで連絡ください。所属支部に関係なく1枚2500円でお分けします。但し、数に限りがありますので完売の際はご容赦ください。

お問い合わせ ishiisekkei@eco.ocn.ne.jp

締 切
9月11日(木)
必 着

申込はコチラ→



定光寺 重要文化財

歴史

建武3年（1336年）、覚源禅師（平心處齊）が藤左衛門尉の案内で尾張国山田荘水野郷を訪れ、この地方の領主であった水野致国と美濃國小田の山内入道が開基檀越となり、臨済宗建長寺派の寺院として創建した。慶安2年（1649年）、喝堂全用が妙心寺派寺院として再興した。

慶安3年（1650年）に尾張徳川家初代徳川義直が没すると、寺域に隣接する山林にその翌年から3年をかけて源敬公廟（徳川義直廟墓）が造営され、尾張徳川家の庇護を受けるようになった。

尾張徳川家第19代当主・徳川義親のとき、同家が約300年間に造営した墓所約170基を廃し、徳川義直廟墓の隣の尾張徳川家所有地の地下に鉄筋コンクリート造の納骨堂を造成して、遺骨をまとめて納骨した[2]。墓所の整理は1936年に完了[2]。1976年（昭和51年）に義親が没した後、義親の遺骨も同所に納骨された[3]。

